

～リニア中央新幹線飯田駅を見据えたまちづくり～

平成22年11月 南信州広域連合

1 はじめに ～自らまちづくりを考え、17年後の未来へ繋ぐ～

2027年に開通が見込まれるリニア中央新幹線の飯田駅設置を見据えて、この地域が目指すべき将来像を明らかにする「リニア将来ビジョン」を策定しました。

リニア中央新幹線については、2007年12月25日には東海旅客鉄道株式会社が、自己負担を前提としたリニア中央新幹線の建設手続きを進めると発表しました。さらに、2010年2月24日には、国土交通大臣から交通政策審議会へ「中央新幹線の営業主体及び建設主体の指名並びに整備計画の決定」について諮問され、国レベルでのリニア中央新幹線の審議が始まっています。

リニア中央新幹線の実現は、移動時間の大幅な短縮により産業立地の可能性向上、交流人口の拡大などでプラスの効果があると言われています。一方で、いわゆるスロー現象などマイナスの影響も懸念されています。こうしたプラス面の効果を最大限に活かし、マイナス面の影響を最小限に抑えるためのまちづくりを今から推進していく必要があります。地域間競争が激しくなると言われる現代社会にあっては、リニア中央新幹線の間駅が、日本の中でも限られた地域にのみ設置されるため、まちづくりにおいて大きな契機になります。

飯田下伊那地域の将来を描く「リニア将来ビジョン」は、この地域の将来像の基本指針です。今後、リニアによる劇的な変化に応じていくために、地域の将来ビジョンを共有し、ここに掲げられた目標に向け、地域が一丸となった取り組みが必要です。この地域に暮らす私たちは、ビジョン策定をリニア中央新幹線を見据えた飯田下伊那地域のまちづくりの最初の一步と考え、17年後の未来に繋いでいきます。

2 ビジョンの策定体制

リニア将来ビジョンを策定するために、リニア将来構想検討会議を設置しました。この会議は、各界の有識者が参加する「有識者会議」、地域住民が参画する「検討会議」及び「ワーキンググループ」の3部構成で検討しました(図1)。2010年5月17日に開催された第1回有識者会議を皮切りに、約半年の間にのべ22回の会議を行い、様々な視点から将来の地域像を論じて、ビジョンを策定しました。今後、南信州広域連合の広域計画等へ反映していきます。

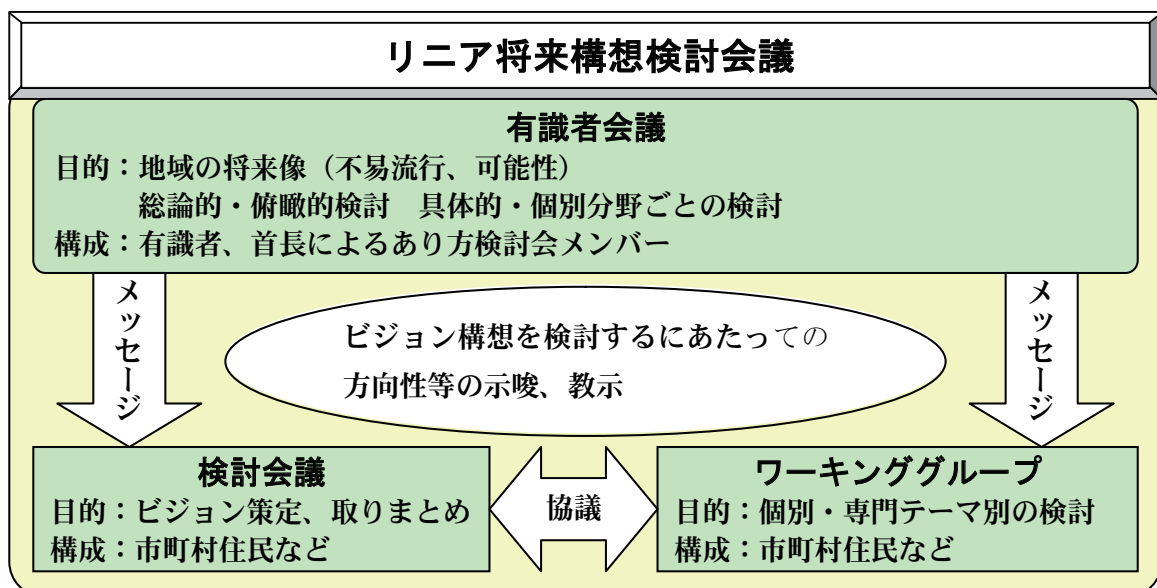


図1 リニア将来構想検討会議

リニア中央新幹線の飯田駅の設置を見据えて、飯田下伊那地域は地域の外と内に対してそれぞれ目指す地域像を次の通り明示し、まちづくりを進めます。(図2)

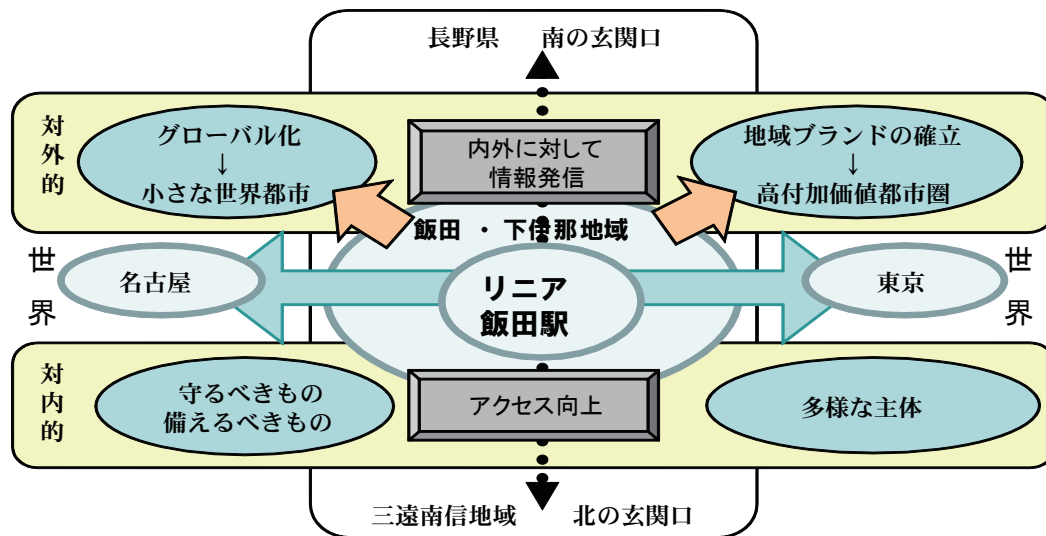


図2 将来の地域像

(1) 対外的に目指す地域像

飯田下伊那地域が、外来者の舞台になることや地域外に情報を発信することにより、日本のモデル的事業の展開や世界で誇れるような地域になることを目指します。

グローバル化(国際性) ～小さな世界都市へ～

リニア中央新幹線の実現は、国内はもちろんのこと、海外との繋がりもこれまで以上に高まり、グローバル化を促進させます。このグローバル化を活かし、人のつながりを大切にする風土を活かした小さな世界都市を目指します。

地域ブランドの確立 ～多機能高付加価値都市圏へ～

リニア中央新幹線の開通により多くの人と情報が往来します。このことは、飯田下伊那地域として、地域ブランドを確立することの重要性を増すことを意味します。そこで、飯田下伊那地域の地域ブランドを確立し、先駆的なモデル都市になるような多機能高付加価値都市圏を目指します。

(2) 対内的に目指す地域像

リニア中央新幹線の開通による地域の変化には、地域が主導権を持って対応することが重要です。先人が培ってきた文化や伝統を守りながら、今後も飯田下伊那地域の住民が、地域のことを自分たちで考えるまちづくりを進めます。

多様な主体

飯田下伊那地域に今も残る「結い」の精神を大切に、住民が自ら活躍する地域が大切です。また、「地域で活躍する価値観、地域を愛する価値観」などを醸成する人材育成に取り組む等、多様な主体が活躍する地域を目指します。

守るべきもの、備えるべきもの

「守るべきものは守って未来に伝え、備えるべきものは備えていく」という理念に基づいた地域づくりを目指します。

(3) 地域像の実現に向けて必要なこと

将来の地域像を実現するには、地域内外に対して「情報発信」をすることと、駅勢圏がより広く捉えられる「飯田駅への交通結節性(アクセス性)の向上」と駅を中心としたまちづくりの取り組みが必要です。

リニア将来構想検討会議のワーキンググループでは、4つのテーマ「産む・育てる・学ぶ」「住む・交流する」「働く」「環境」について、将来の地域像を議論しました。ワーキンググループのテーマごとに、議論された具体的なまちづくり案は、次の通りです。(表1)

		産む・育てる・学ぶ	住む・交流する	働く	環境
対外的なこと	小さな世界都市 グローバル化	●海外研究者の来訪の拡大 ●地域の子供の国際交流の場 ●国際交流の拡大への対応	●二地域居住の重点的な促進 ●ライフタウンの推進 ●人形劇のまち ●国際会議のまち ●スポーツの世界大会開催地	●世界とのつながり ●国際会議の舞台 ●外国人労働者	●環境産業とグローバル化 ●文化・人間・地域環境の世界への発信
	高付加価値都市圏 地域ブランドの確立	●人形劇の文化 ●高等教育機関の整備	●日本のふるさと(交流居住) ●日本医療福祉の郷づくり ●広域観光(木曽、上伊那から三遠南信) ●日本アルプスのゲートウェイ ●低炭素社会を目指した鉄道・バスのネットワーク	●地域の資源の活用 ●大学との連携 ●新たな産業の創出 ●トータル戦略	●ないものねだりからあるもの探しへ ●どのような取り組みが考えられるか ・里山共生都市 ・地域に根差したスマートシティ
対内的なこと	多様な主体	●公民館活動の活性化 ●地域にある多様な主体の連携	●結い・公民館ネットワーク(IIDA・YUIの輪) ●住民活動から社会的企業創造への展開 ●地域を愛する教育 ●生活へのIT活用(携帯ネットワーク等) ●伝統への参加 ●食文化の明確化 ●グリーンツーリズム(体験農業・農家民泊発祥の地)の深化	●新たな企業・産業の誘致 ●農林業のブランド化・6次産業化 ●福祉分野の就労機会の創出 ●テレワーク型の就労形態	●どのような主体が考えられるのか ●地域の中の主体をどのように育成していくか
	備えるべきもの 守るべきもの	●地元学(地域学)をとおした「生きる力」、「ふるさと」への思いの醸成 ●子供と大人が楽しく集う地域行事の検討 ●子供たちにワクワクした新たなものとの出会い	●ゆるやかな地域内交通 ●地域の誇りを育む区域指定等 ●作る景観 ●癒しの環境づくり ●各町村の特徴ある生活環境 ●グリーンツーリズム(体験農業・農家民泊発祥の地)の深化 ●日本の風景 ●環境	●文化、伝統、景観 備えるべきもの(地域産業の競争力) ●誘致企業と地域経済のつながり ●地元企業のレベルアップ ●地元企業の合併	●土地・自然環境 ●文化・人間・地域環境
全体に関すること		●生活基盤の整備 ・新たな業態の企業誘致などの職場環境の整備 ・安心して暮らせる住環境の整備 ・産科環境(医療)の充実 ・域内、県内の交通整備	●小さな世界都市総合特区の申請 ●バーチャル大学の設立 ●地域通貨・地域カードの発行 ●パブリシティ機関の設立 ●三世代プロジェクト	●人口の維持 ●高齢者の働く場の確保 ●ゆっくりとしたコントロール ●ネットワーク ●情報発信 ●交通機能の強化(ゲートウェイ) ●高等教育機関 ●広域での推進	●情報発信 ●専門家による検討や住民の学習 ●マネジメントの必要性

表1 ワーキンググループの論点

みんなで考えようリニアを見据えた地域の未来を



Mさん家族が暮らす飯田下伊那地域の2040年～

リニア飯田駅がある地域の未来は、どのような世界でしょうか。
今から30年後の地域に暮らすMさん一家の姿を見てみましょう。

Mさんは、目の前に南アルプスが広がる山の生活にあらがれ、奥さんと一緒に遠山郷に住み、日本伝統芸能研究センターに勤めています。霜月祭りをモチーフにしたアニメ制作の指導もします。

遠山郷から三遠南信道を經由すれば30分でリニア飯田駅へ行けるため、多くの研究者や芸術家、クリエイターたちが訪れ、新たな芸術文化が花開いています。

妻は、旅行で訪れた際、この地域の自然に魅了され、環境企業にインターン。今では、リニアで訪れる国内外の観光客にエコツーリズムを案内しています。

両親は、山あいにある環境に優しい地域産材を利用した高齢者向けの住宅に住んでいます。飯田下伊那地域は、こうしたエコハウスなどが普及しています。80歳を超えた両親は、公民館の講座に参加し、生涯健康・生涯現役の生活を謳歌しています。

息子は、中心市街地で暮らしています。森に囲まれたソフトコンテンツを開発する研究所で働いており、本

社がある東京へもリニアで週2回通勤しています。飯田下伊那地域には、このような研究施設がいくつもあり、研究開発の産業集積として連携しています。

娘は、ヨーロッパの大学教授と結婚し、地域が一望できる山のふもとに暮らしています。大の祭り好きで、地元のまつりには必ず参加します。中央道や三遠南信道で来る諏訪の御柱祭のグループや浜松まつりの風揚げのグループ、さらに、リニアを使って東京や名古屋のまつりのグループとも交流をしています。

娘の夫は、暮らしの拠点を飯田下伊那地域におき、時には羽田、時には中部と、空港を使い分けながら、研究のため、世界各地を駆け巡っています。

最後に、Mさんの楽しみについてふれましょう。Mさんは、この地域にある山に登ることが楽しみです。特に山頂から見る景色は格別で、今でも、山に登るたび、美しい風景や自然が残っている飯田下伊那に、地域の誇りを感じています。

30年後のMさんの生活を描いてみました。皆さんもリニア飯田駅を見据えたまちづくりに取り組んでみませんか。



この概要版に対するご意見、お問い合わせ先

南信州広域連合事務局

電話 0265-53-7100